



新聞で
読解力アップ!

ワークシート

クマ出没防止へ 果樹伐採



耕作放棄で誘因に

南区で市民団体など企画

耕作が放棄されたサクランボなどの果樹が札幌市街地にヒゲマが出没する要因の一つとなっていることが、野生動物の調査や研究をするNPO法人エンヴィジョン環境保全事務所（札幌）の分析で分かった。NPO法人と市民団体エコ・ネットワーク（札幌）は17日、クマの出没が多い南区藤野、簾舞地区で放棄された果樹の伐採に乗り出した。
（内山岳志）

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

NPO法人は札幌市から野生動物の調査を委託されている。昨年の市内の出没状況を分析したところ、196件の2割に当たる44件は出没場所に果樹があった。「多くは放棄された果樹だった」としている。被害時期は実がなる6～8月に集中していた。

早稲田宏二研究員は「果実の味を覚えたクマは人里に繰り返し出てくるようになる」と指摘。昨年8月に藤野地区の住宅街に出没を繰り返した。駆除された雌クマも過去に放棄された果樹の実を食べていたことが分かっている。

今回の果樹の伐採は市が仲介役となり、所有者の同意を取り付けた。市民団体などが民有地で放棄された果樹を切る取り組みは市内で初めて。藤野、簾舞地区は果樹園が多く、栽培農家の高齢化などで、放棄された果樹が残る地域。市によると、少なくとも5カ所約100本あるという。

エコ・ネットワークが市民ボランティアを募り、果樹の伐採と枝の処理を始めた。17日は市民団体などの会員5人に市民10人が加わり、クマの食害がある簾舞地区の放棄されたサクランボ園で作業された。所有する男性の父親は農家で、サクランボは30年ほど前に植えたという。これまでにクマの体毛が木に付着していたことがあり、男性は伐採を了承した。

参加者はチェーンソーでサクランボの木約50本を伐採した。参加した藤野地区の農家伊達寛記さん(51)は「予防策をとらなければ、また別のクマが現れる。市民にできる対策を学びたいと思った」と話していた。

【電子版】に動画

放棄されたサクランボの木をチェーンソーで切る市民ボランティアら17日

『北海道新聞』 2020年6月18日（木）朝刊（札幌版）

(1) について、次の①、②に答えなさい。

① 伐採されたのは、どのような果樹ですか。具体的に説明しなさい。

② ①で答えた果樹を伐採したのは、どのようなことが起こるのを防ぐためですか。簡単に説明しなさい。

(2) とありますが、果樹の耕作が放棄される理由として、記事中ではどのようなことが挙げられていますか。
